

精神障害者リハビリテーション学会愛知大会共同開催

## JNPF シンポジウム内容決定！

2021年12月開催の標記シンポジウムは12月12日（二日目）の午前・午後（午前：シンポジウムⅠ／午後シンポジウムⅡ）に決まりました。概要は以下の通りですのでお知らせいたします。大会自体が完全オンライン開催となりましたので、JNPFのシンポジウムも双方向性オンライン（ライブ）で行う予定です。

### シンポジウムⅠ 心理教育 おわりのはじまり!?

司会：内野俊郎（久留米大学） 渡邊真里子（ちはやACTクリニック）

対話者

後藤雅博（こころのクリニック ウィズ）：個人史のなかでの心理教育～心理教育の変遷～  
遊佐安一郎（長谷川メンタルヘルス研究所）：感情調節困難の治療の中で考えたこと～心理教育のバリエーション～

伊藤順一郎：（メンタルヘルス診療所しっぽふぁーれ）：ACT・地域に出てみて考えたこと～疾病概念のゆらぎ～

リフレクション：内野俊郎・渡邊真里子・中岡恵理（希望ヶ丘ホスピタル）・岡田久実子（みんなねっと）

### シンポジウムⅡ 当事者・家族・支援者をめぐる協働のさまざまなあり方：その差異と共通性

座長 佐藤創一郎（希望ヶ丘ホスピタル） 菅原明美（美作大学）

シンポジスト

西尾雅明（東北福祉大学せんだんホスピタル）：ACTによる家族支援

向谷地生良（北海道医療大学・浦河べてるの家）：対話実践としての当事者研究

岡田久実子（みんなねっと）：家族による家族学習会

コメンテーター 福井里江（東京学芸大学）・佐々木理恵（東京大学附属病院精神神経科）

シンポジウムⅠはオープンダイアログ形式で行われる、「心理教育のこれまでと現在」です。JNPFの最初から関わっている3人のベテランが個人的体験を通して、それぞれ心理教育・家族心理教育の経過、広がり、今後の方向性を語ります。それを聞いていた3人が感じたことを対話します（リフレクション）。その後そのリフレクションを聞いた3人が対話をするという形式です。時間が許せば全員と視聴している参加者による総合討論も入れる予定です。

シンポジウムⅡはシンポジウムⅠを受ける形で、現在、そして、これからJNPFが目指していく方向性の一つである協働的アプローチについてのシンポジウムです。SDM、オー

ブンダイアログ、WRAP など他にも様々な協働的アプローチがありますが、今回はこの3つを取り上げてみました。これまでにない斬新な試みであると思います。シンポジストはみなそれぞれの領域の第1人者ですし、コメンテーターに福井氏とピアサポーターでもある佐々木氏をお願いしており、さらなる広がりが期待できると思います。

\*参加方法:すでにお伝えしたように、まずは精神障害者リハビリテーション学会愛知大会に大会ホームページから参加申し込みをしてください。

\*精リハ学会の会員の方は会員での申し込み、JNPF 会員だけの方は非会員で申し込みをお願いします。

\*非会員で申し込んだ方も、もちろん精リハ大会の全てのプログラムに参加できます。

\*参加証が確認できれば、次年度会費が1000円割り引かれます。

**2019年度、2020年度とJNPFの研究集会の開催はcovid-19のために延期を余儀なくされました。是非今回の愛知大会に奮ってご参加ください。**